

## “適正な刈取り高”を実践しよう！

昨年は6月中旬以降の高温・早魃の影響により、夏枯れによる草地の植生悪化が問題になりました。今年の1番草収穫時においても、猛暑日が続くことを想定した対応が必要です。

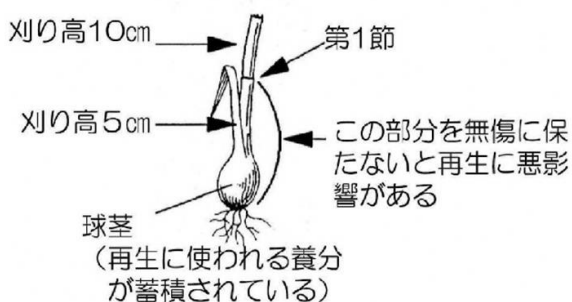
土や堆肥等の混入によるサイレージ品質低下とともに、採草地の植生悪化を防ぐため、“適正な刈取り高”を実践しましょう！

### 採草地の夏枯れ防止のポイント

#### ①牧草の刈取り高は地際から“10cm以上”

- 1番草刈取り後の牧草再生のため、地際から10cm以上の高さを確保しましょう！
- モアコンディショナーのカッターバーの角度調整や“ソリ(スキッドプレート)”の装着により、刈取り高が低くなり過ぎないようにして下さい。

#### チモシーの刈取り高の違いが再生に及ぼす影響



- チモシーは養分を蓄える部位(球茎)が高い位置にあります。
- 刈取り高が低く、球茎が損傷すると、分けつの再生が停滞し、茎数減少による収量低下や枯死するリスクが高くなります。

#### ②牧草刈取り後には適切なタイミングで施肥する

- チモシー主体草地における追肥のタイミングは、刈取りから7～10日後が目安です。
- スラリーや消化液を利用する場合、散布のタイミングに注意して下さい。昨年は1番草収穫後にスラリーや消化液を散布した圃場で植生が悪化した事例が確認されました。